

「こだわり」「かかわり合い」「ふりかえり」のある追求によって 自分の生き方を考える総合的な学習の時間の在り方

1 総合的な学習の時間で願う豊かな学びの姿

本学校の総合的な学習の時間は、11年間の教育を通して次のような学びの姿が見られるようになることを期待して実践している。

- 自分の実感・納得を大切にしていくなかで、自分なりの疑問や課題をもち、その解決に向けて考えたり行動したりする姿（こだわり）
- 他者の立場や視点を大切に、目的に向かって他者と共に取り組み、ひと・もの・ことと積極的にかかわる姿（かかわり合い）
- 取組を振り返る中で、自分のよさや可能性に気づき、自分の生き方について考えようとする姿（ふりかえり）

指導要領では、総合的な学習の時間に育てようとする資質や能力及び態度の視点を、学習方法に関する事、自分自身に関する事、他者や社会とのかかわりに関する事などと示している。この視点に対応し、「こだわり」・「かかわり合い」・「ふりかえり」というキーワードにして、目標を達成しようというものである。

次の子どものふりかえりでは、私たちがねらう学びの姿がみえる。

多くの学びのなかで一番痛感したことは、患者さんとのコミュニケーションをとることの難しさでした。いざ患者さんを目の前にすると何を話して良いのかわからず、とても困りました。笑顔の看護師さんのように話が弾まず、自分の事で精一杯で患者さんの気持ちを聞いたり考えたりする余裕は全くありませんでした。そんな私たちでしたが、「君たちを見ているだけで元気が出るわ。」と患者さんから言っていたときには、私たちでも何か少しは役に立っていることに驚きました。コミュニケーションをとることで患者さんの心や体の状態が分かり、それを医師に報告することによって患者さんの回復につながることもあるそうです。

(中学2年 生徒A)

わたしは三つの全校活動を行ってみて、低学年の立場になって計画をすることが大事だと思いました。六年生が目線でお店を考えると、低学年がやってみたときにレベルが高すぎて困るし、とてもやんちゃで元気な子に対してどう接すればいいかなど初めて全校活動をする一年生も楽しめるように工夫するのが難しかったからです。初めて全校活動を企画した五年生のときよりもお客さんと仲良くできるようになったし、見通しをもって時間配分したり、活動の計画を立てたりできるようになって、普段の生活でも時間を大事にするようになりました。

(小学6年 児童B)

生徒Aは将来何か人の役に立つ職に就きたいとの思いから病院での職場体験学習を行うことに決まり、実習日誌にも実際に教えていただいたことや自分自身が気付いたことを細かく記録していた。職場体験学習を通して、医療現場で働く方とのかかわり合いから実際に働くということの難しさややりがいを感じていること、患者さんとのかかわり合いから、中学生としての自分にもできることがあるという気づきが見てとれる。

小学6年生の総合的な学習の時間での主な活動は、全校活動において子どものお店を企画・運営することである。児童Bは全3回の全校活動を振り返って、相手意識をもって活動を計画

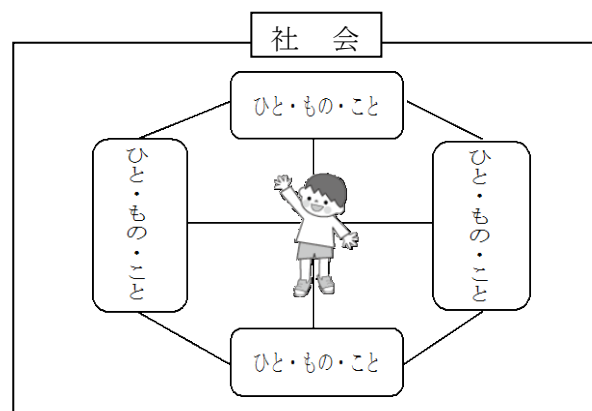
することの大切さに気付き、誰にでも楽しんでもらえる工夫を考えて活動している。また、準備段階から時間を大事にすることを意識しており、活動後の生活でも活動を通して実感した時間の大事さを意識して行動していることがわかる。

生徒Aや児童Bのように、学習活動を通して気付いたことや学んだことを自分自身の今後の生活や将来の生き方につなげて考えることのできる子どもを総合的な学習の時間で育てていきたい。

2 総合的な学習の時間で身に付けさせたい力 (別表1参照)

本学校園での総合的な学習の時間は初等部後期ブロックから中等部ブロックでの学習となる。そして、各教科・保育において培った力をもとに探求的な学習をしていく場が総合的な学習の時間であると考え。総合的な学習の時間で身に付けさせたい力は学習を始めた時点から身につけていくものではなく、その素地は初等部前期ブロックから育まれているものと考えている。そして各学年での発達段階や興味・関心をもとに、学習者自身が設定した学びを通して、徐々にその力が高まっていくことを期待している。

総合的な学習の時間の活動を通して、児童・生徒は様々なひと・もの・こととの出会いを経験する。出会った対象への興味・関心がこだわりとして学習課題に大きく反映される。そしてそれらとかがわり合う中で、学習者自身と対象の関係がより複雑になったり、逆にシンプルになったりすること、また対象同士のかがり合いが発見されることで児童・生徒の学習は深まり、体験的な学習活動から実感として自分自身が社会の一員であることに気付いていく。こうして深まった学びを児童・生徒自身が振り返る過程で、自分自身で自分・他者のよさに気付くことができ、学習を通して得たものをどういかしていくかを含めた今後の生き方を考えるきっかけにもなることを期待している。



冒頭で述べた総合的な学習の時間で願う豊かな学びの姿について、身に付けさせたい力と「豊かな『社会生活』を創造する」資質や能力の中で顕著なものとの関わりを述べる。

こだわり

○見通しをもって考えたり行動したりする力

総合的な学習の活動を行うなかで、児童・生徒は、自分達の手で計画をし、必要な情報を集め、目標達成のために様々な実践をしていく。途中で行き詰まりや、思うように活動が進まないなど困難にも出会うであろう。そうした中で計画を立て直したり、別の方法を考えたりするうちに見通しをもって考えたり行動したりする力が身に付くと考えられる。これは豊かな社会生活を創造する資質や能力のうち、企画・実行力にあたる。

○自分のしたいことを見つけて追求していく力

児童・生徒は自分の興味・関心が強い物事を学習対象とし、課題解決に向けて追求していく。そして、学習や体験をするうちに出会った事象から見付け出した課題に対して自分の考えをもち、その解決に向け、こだわりをもって探したり、調べ続けたりする力を自ら養っていくことが期待できる。これは豊かな社会生活を創造する資質や能力のうち、追求力にあたる。

かかわり合い

○自他の願いや考えを調整し、追求する力

学習を進めていく過程で、児童・生徒は自分自身の学習課題を解決・追求していくためには他者とのかかわりが不可欠であることに気付く。その他者とは一緒に学習を進めていく友達であり、身近な地域の方である。このような他者とよりよい学びをつくっていくためには、一連の学習活動を通して、自分の都合だけを優先して勝手に学習を進めていくのではなく、お互いの願いや考えを調整し、相手の立場に立って考えることが大切であることに気付いていくのである。

○多様なひと・もの・こととよりよく関わる力

総合的な学習の時間を進めていく中で、児童・生徒は様々なひと・もの・こととの関わりをもつ。学習の初期段階ではかかわりをもつ対象が一对一であったものが、だんだん対象が多様化し、学習者自身の成長とともにその関係に広がりや深まりが見られてくる。特に不特定多数の人との関係を考えるとき、自分自身の都合・興味関心だけでなくより相手意識をもって学習を進めていかなければならない。この相手のことを考えて追求する力の高まりとともに人間関係力、道徳性も身に付いていくと考える。

ふりかえり

○見出したことを役立てようとする力、よさや可能性に気付く力

学習活動を通して、児童・生徒それぞれが学んだことや、学習者相互でのよさや可能性が気付きとして生じるであろう。それらの気付きを学習者がそれぞれに今後の日常生活や将来設計に役立て、いかしていくことを期待したい。後者のような気付きが生まれるのは児童・生徒自身に何をどのように学び取るかであるとか、自分の周囲から何をどのように学び取るかという学び方が身に付いているからである。

このように、自分自身の興味・関心に基づいて課題に対して問い続け、学び続けることが豊かな社会生活の創造につながると考える。

3 成果と課題

学習指導要領の改訂とその実施にともない、本学校園全体の総合的な学習の時間の学習計画を見直し、学校園の目標を立てることができたのは一つの成果であった。資質・能力育成の面での系統性あるカリキュラムを作成したが、このカリキュラムの実践を重ねていく中で今後見えてくる課題をいくつか挙げる。

学習指導要領が示す目標にも総合的な学習の時間には横断的・総合的な学習や探求的な学習を行うことがあげてある。本学校園でも小学校段階から題材の工夫をして学習を展開しているが、今後も本学校園の特色に応じた諸課題を見出し、有効性を明らかにしていきたい。また、育てたい資質や能力、態度をどのように評価していくかも今後の課題である。どのような題材をどのように配列し、単元構成の吟味や教師のはたらきかけについてさらに研究を深めていきたい。

(文責 岩崎 香織)